

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花(1F)		
所在地	大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	平成29年9月16日	評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅街に立地し、周囲の環境に恵まれている。母体の医療機関や介護施設と併設しており緊急時の対応を迅速に行っている。季節感のある行事を多く行い運動会は家族や地域の方々と共に楽しんでいる。個々の誕生日を大事にしておりに手作りケーキでお祝いしている。庭にはゴーヤのカーテンやトマトさつま芋等を作りそれらに関連する行事を楽しんでもらっている。地区のボランティアのお花教室や開所以来継続しているセラピストによる音楽療法やビューティタッチセラピー等皆様楽しみにされている。毎月ご家族や町内会に郵送したり回覧している「菜の花便り」は175号になった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の中にあり利便性に優れているとともに医療機関の併設で緊急時などの連携がとれており、安心して過ごせる環境にある。また、日常的に地域との交流ができており、行事の時は地域住民や家族も参加して利用者とともに楽しんでいる。特に個々の誕生日には職員手作りのケーキでお祝いしたり、手作りおやつを一緒に作るなど、利用者と職員がゆったりと過ごす時間を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より「地域と共に、自然と共にその人らしく」を理念とし、その実践に向けて日常的に教育している。	事業所の理念と法人の理念をともに共用空間の目のつくところに貼ってある。勤務歴の長い職員が多いので理念をよく理解し共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神楽、お祭り、敬老会等への参加。運営推進会議等での自治会長、民生委員との意見交換や交流、近所の喫茶店や商店での買い物、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ等。	地域の行事に利用者とともに参加したり、事業所の催しなどにも参加してもらったり、また、中学生の職場体験やボランティアの受け入れも多く、日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事等で出来る事から取り組んでいる。菜の花便りの回覧、認知症介護教室の開催やサロンでのホームの紹介を実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。59回の開催となり行政の方の意見や指導、民生委員、自治会長の助言や協力等をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、行政(隔回)、地域包括、家族、入居者、民生委員、自治会長が毎回参加しており、避難訓練などについて意見を出し合い、出された意見はサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加してもらう等で事業所の取組を伝え、それについての意見をもらったり評価結果についてもその場で報告する。	運営推進会議に参加している包括にも評価結果は必ず提出している。今後の介護保険の動向についての話や意見、アドバイスをもらうなど事業所と行政の連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会に参加したり定例会で勉強会を実施し共有認識を図っている。入居者の状態を観察し見守る事で拘束をしないケア実践の努力をしている。	法人で行う権利擁護、身体拘束の研修が年4回実施されるので参加をしている。事業所内研修も毎月実施しており、身体拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンス等でその都度注意を促す。虐待防止の研修に参加し定例会等で再度職員に教育を徹底する。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおり、その都度職員にも分かりやすい様説明をし、研修会に参加して定例会で職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員や管理者が、契約は管理者が行いその後は管理者や職員が、家族や関係者が納得いくまで、説明を行う。報酬改定時は説明をし、署名、捺印をもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージを添えている。年に数回親睦会や家族参加の行事を開催し意見や意向を聴き運営に反映している。	年に数回、親睦会など家族参加の行事を企画している。特に運動会には過半数の家族の参加がある。意見箱だけでなく口頭で言われた意見も大切に運営に反映させている。最近は家族の意見を反映し出勤者の名前を掲示している。管理者と職員がコミュニケーションがとれており意見を言いやすい環境である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一人の発言のもと全員が自由に意見を言い、業務の見直しや運営に活かしている。	毎月の定例会で出た意見は勤務の見直しや運営に活かしている。備品の購入も法人に言いやすく実現できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当等の支給、管理者はフリーの勤務とし柔軟に対応できる様にしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修には出来る限り多くの職員が参加できる様にしている。新しい職員には認知症専門の研修に参加してもらい、各研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は誰でも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクリエーション、研修会等に参加している。他ホームの見学や交換実習にも積極的に参加している。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見に来てもらい必要であれば通って貰ったり、管理者が会いに行ったり遊びに来て貰ったりしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携して家族と納得のいくまで話す。見学に来て貰ったり、職員と話をしてもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては、他事業所のサービスに繋げる等の対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来る事を把握し、一緒にやりながら教えてもらったり助けてもらったりする。また、そういう場面が多くもてる様工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にどんな小さい事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月「菜の花便り」には担当がそれぞれの家族に現状を報告する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店での買い物、家族、知人との電話や手紙、葉書での連絡をとりもつ。自宅やその周辺の様子を見に行く等支援をしているが充分でない方もあり今後も支援に努める。	疎遠になっている人には積極的に声かけをしている。地区の人の入所が多いので、行きつけの美容院や喫茶店、買い物、墓参りなど地域との関わりがあって、良い関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有出来る様にしている。毎日の食事やお茶は職員も一緒に会話をし、役割活動をとうして入居者同士の関係が円滑になるようはたらきかける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らない様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での本人の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得る様にしている。	催し物への参加時や日常の関わりの中で、家族の知らないことや気づきが多々ある。入所歴も長くなっているがセンター方式のフェイスシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、分かりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医等の意見を反映し、本人が楽しめる事、好きな事を計画的に入れるアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人、家族、かかりつけ医の意見を反映し職員と話し合い、ケアマネージャーがケアプランを作成しているが、担当者が意見を出すことが多い。3ヶ月に一度、全員でモニタリングを行い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や外出の付き添い、家族の宿泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政センターの図書室の利用や地区行事、お祭り等への参加。中学生の職場体験やボランティアの受け入れ、消防署、民生委員等との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられる様支援している。また、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	ほとんどの利用者が法人の医療機関を受診しているほか、協力医療機関や専門医との連携がとれており、訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている。看護職員がいない時は連携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できる様アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞う様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。今後は定期的に意思確認の再確認をしていく必要があると思われる。	入居時に事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。法人が医療機関なので重度化して受診すると医療処置の必要から入院となるケースが多く、看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともにその勉強会も実施している。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については自治会長、民生委員に訓練に参加してもらい消防団へは入居状態を知らせている。	消防署の指導で年2回避難訓練を実施している。自治会長、民生委員なども参加し、消火器やAEDの使い方の訓練などを取り入れている。また、併設施設の協力を得てGH独自の訓練も実施している。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折りに職員の意欲向上を図るとともに日々の関わり方をリーダーが点検し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	法人の研修に参加し職員の意識向上を図るとともにカンファレンスで1人1人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人の決める場面を作っている。(飲み物の選択、体操のシール貼り、する・しないの選択)職員の決めたことを無理強いしないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調を観ながらその日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちに添った支援を心掛けている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマ毛染めも利用し、エステやマッサージも講習を受け資格保有者が施術する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないがおやつを一緒に作ったり配膳や片づけ等を入居者と共に行い職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしている。	三食とも法人から運ばれている。季節の物や行事が組み込まれているものも多く、変化に富んでいる。入居後食生活が改善され、髪の毛の質が良くなった利用者もいる。調理する機会はないが、配膳や片付けは利用者とともにしている。食事は職員も同じテーブルで利用者と同じものを食べながら会話をしたり、介助を行ったりして和やかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックを記録し摂取量の把握。食事形態や栄養補助食品の摂取等検討し献立外であっても、本人の好む物を提供する。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり介助をしている。毎食前嚙下体操を行い歯科医の協力で定期検診を実施したり研修に参加し勉強会を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレ誘導したり、その方に合った下着や衣類を使用する事やトイレでの排泄にこだわり1日1回はトイレに座る事を実施している。	個々のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。おむつ使用の人も1日1回はトイレでの排泄を実行している。失禁や状況に合わせて布おむつ、リハビリパンツ、紙おむつ、尿取りパッドなどを使い分けを細やかに行い、自立の支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩や体操、家事活動等、体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はあわただしくならない様ゆっくり時間をとって楽しんでもらう様にしている。介助が必要な方は簡易リフトや介助用シャワーチェアを使用、順番にこだわる方に順番表を作成し対応している。	原則として2日に1回入浴だが、毎日沸かしており、特に汚染時や希望者には随時入浴対応ができています。簡易リフトやシャワーチェアの購入で重度化しても容易に入浴ができるようになった。また、順番にこだわる人のために入浴順番表を作り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し生活リズムを整える様つとめている。また、一人ひとりの体調や表情希望等を考慮して、ゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を全職員が内容把握出来る様にしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服薬できているか確認する。処方や内容変更時状態の変化が見られる時、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様配膳の手伝い、洗濯物たたみ、庭の手入れ、生け花、書道、カラオケ等、音楽療法、近所のコンビニでの買い物や、喫茶店等へも出かけている。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は散歩に行く。個別には喫茶店やお寺参り、コンビニへの買い物に行ったり家族にお願いして外出してもらう事もある。	行事や集団での外出のほか、その日の希望に応じて散歩や買い物、喫茶店に行ったり、時には家族に依頼して外出する機会を作っている。天気の良い日はできるだけ外気に触れる機会を作り支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理し買い物に行き自分で払う人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや声かけを行うとともに贈り物のお礼の手紙や葉書を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅で使用していた物をおいている。季節の野菜や花を植えたり玄関にベンチを置いたりして居心地良く過ごせる様工夫している。	利用者の個性や希望に合わせて食卓の配置やソファの設置など、それぞれくつろぎの場所がある。廊下には利用者の行事や日常の写真、作品などを掲示している。全体的に清掃が行き届いている。入り口に貼ってある職員の顔写真には当日出勤者に印をつけて訪問者にもわかりやすく配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、テレビをゆっくり見たり、話しがしやすい空間を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇等、写真や思いでの品々が持ち込まれ、居心地の良さを配慮している。	地区内の入居者が多いため、ソファや机など使い慣れた品、仏壇や家族写真など思い出の品を持ち込んでおり、担当者が個性を活かした居室づくりをするなど居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやってもらえるのか。を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は職員で話し合い不安や混乱材料を取り除き、自立支援に繋げている。		